

市民による海辺の生物調査マニュアル(試案)

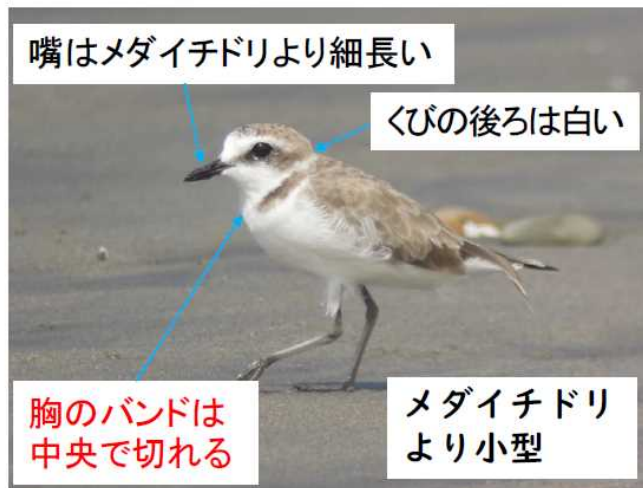
資料編

(指標種の見分け方(鳥類、昆虫類))

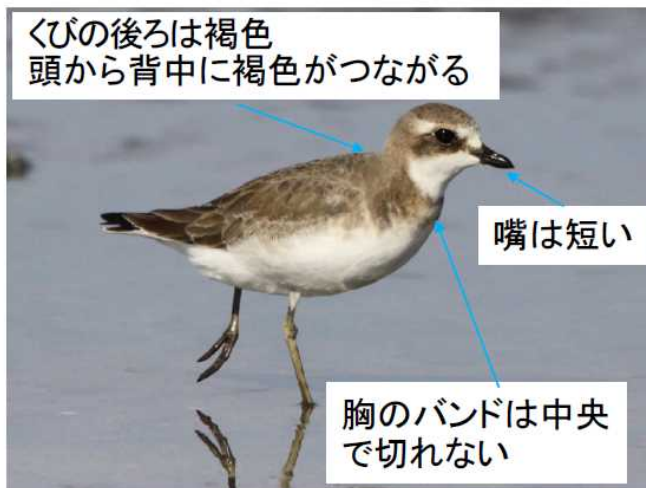
指標種の見分け方

◆シロチドリ

- ・ 近似する種としてメダイチドリがいます。
- ・ メダイチドリとは、^{くちばし}嘴の長さ、くびや胸の色で区別できます。
- ・ 胸の横帯(バンド)が中央で切れているのはシロチドリだけです。



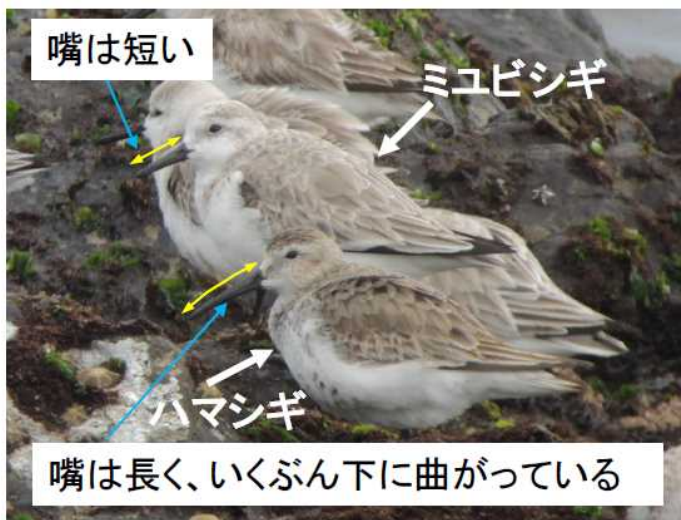
シロチドリ (冬羽)
(全長15~19.5cm)



メダイチドリ (冬羽)
(全長19~21cm)

◆ミュビシギ

- ・ ミュビシギは嘴が短い。
- ・ ハマシギは嘴が長く、いくぶん下に曲がっている。



ミュビシギ (上) とハマシギ (下)

◆調査は目視観察です。

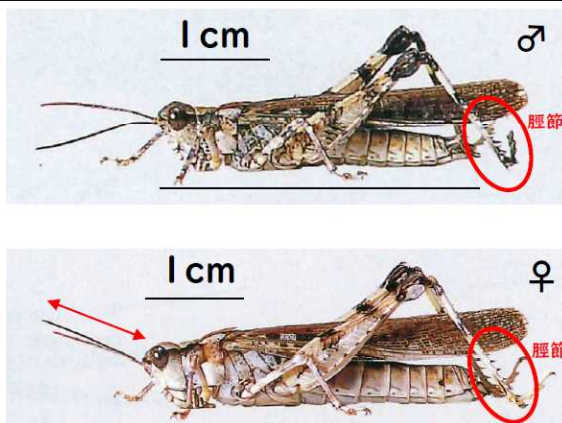
- ・ 最初に定点1で周囲を渡して鳥を探します。同じ場所に15分間留まって観察します。
- ・ 見つけた順に指標種の羽数を調査票に記入します。不明なものは「不明」と記載して下さい。
- ・ 指標種や不明な種をスマホで写真を撮影します。スマホのカメラの拡大機能を使って撮影します。全て撮影する必要はありません。
- ・ 定点1での観察が終了したら、ルート観察を開始します。定点2に向かって移動します。
- ・ ルートは1kmです。30分ほどかけて海側を見ながら歩き、見つけた鳥を記録します。
- ・ 定点2についたらルート観察を終了します。引き続き定点2での観察を始めます。
- ・ 定点2に15分間留まって観察し、見つけた鳥を記録します。調査が終了したら定点1に戻ります。
- ・ 安全第一です。波打ち際近くでは波の状況に注意してください。



指標種の見分け方

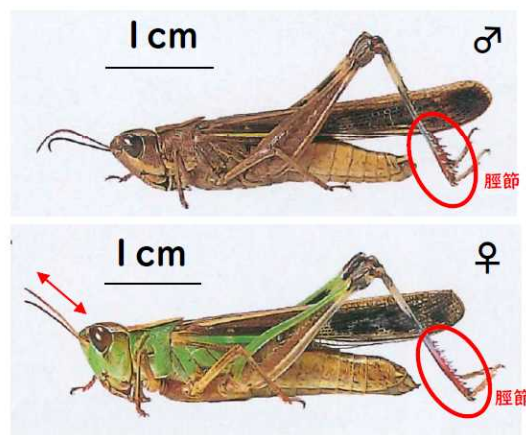
◆ヤマトマダラバッタ

- ・ 後翅が淡い青色（飛翔するとわかる）。
- ・ 後脚脛節に赤い部分はない
- ・ 体色は褐色で砂の色に似た模様をもつ。
- ・ 触角が長い。



ヤマトマダラバッタ

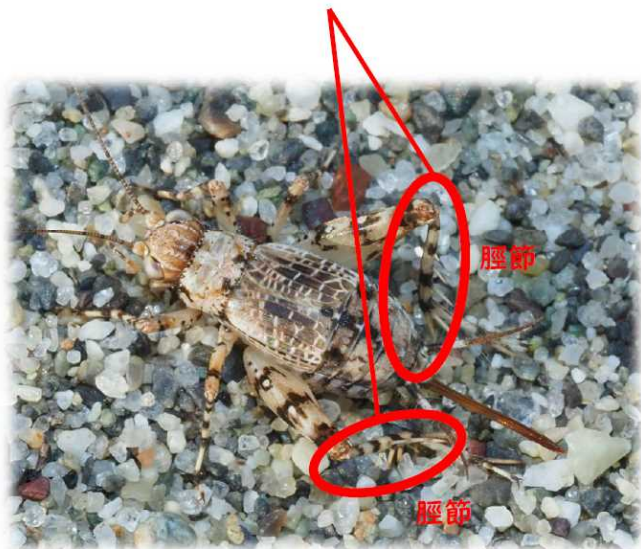
- ・ 後翅は無色透明で、青みはない。
- ・ 後脚脛節の先1/3が赤い。
- ・ 体色は褐色型、緑色型、桃色型
- ・ 触角は短い。



マダラバッタ

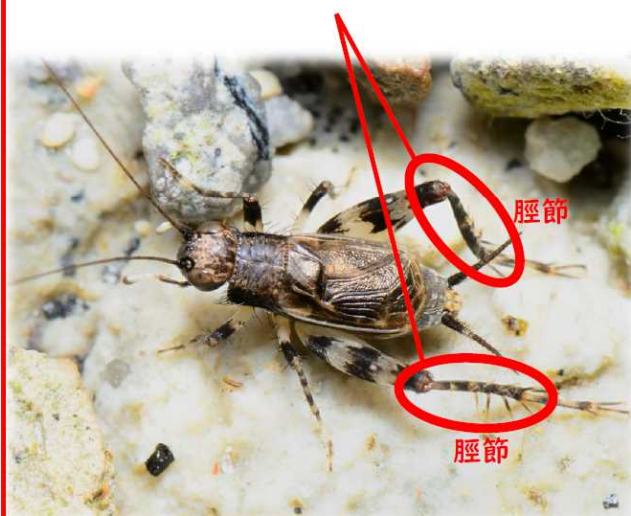
◆ハマスズ

- ・ ハマスズは後脚の脛節は白黒の模様が連続する



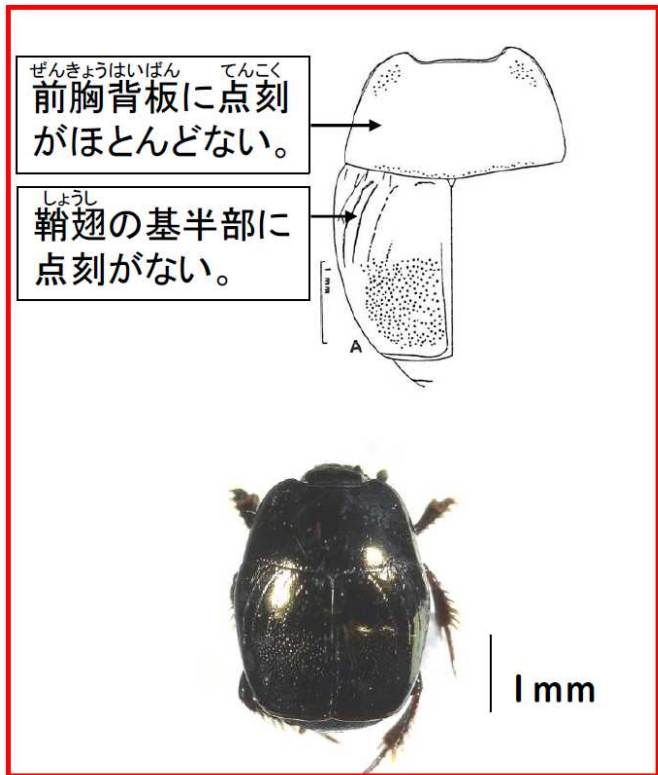
ハマスズ

- ・ マダラスズ、カワラスズは後脚の脛節は黒く、所々白い斑紋が見られる

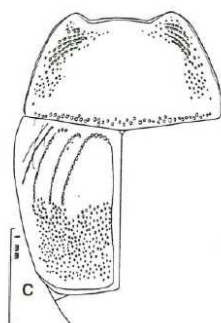


マダラスズ

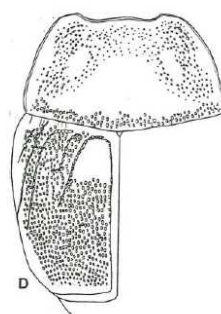
◆ハマベエンマムシ



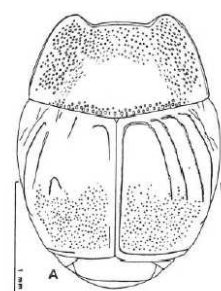
ハマベエンマムシ



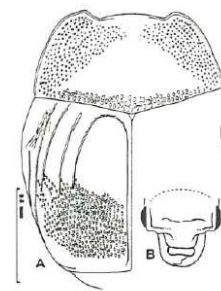
ニセハマベエンマムシ
体長：2.4～3.4 mm



カラカネハマベエンマムシ
体長：2.3～3.7 mm

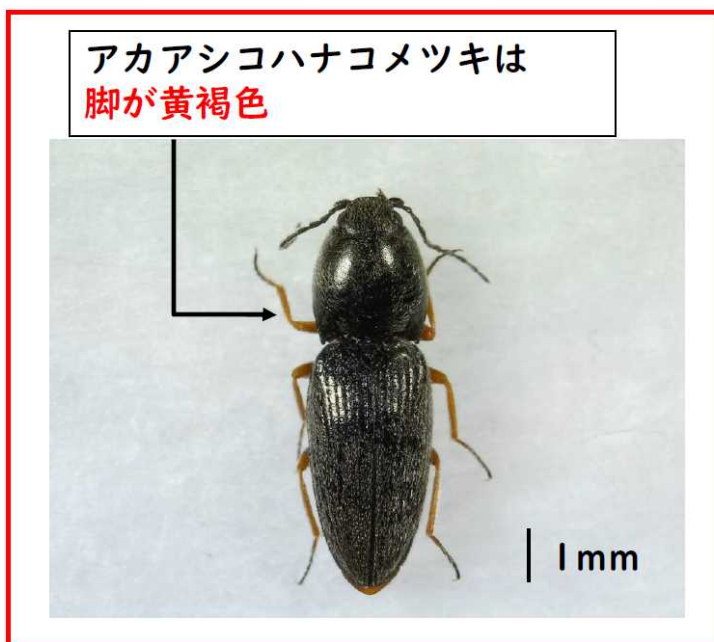


ヒメハマベエンマムシ
体長：2.0～2.4 mm

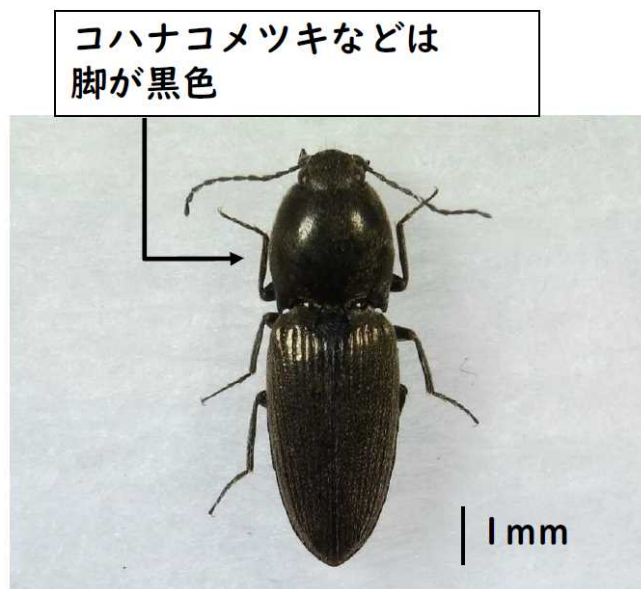


アカンハマベエンマムシ
体長：2.1 mm

◆アカアシコハナコメツキ



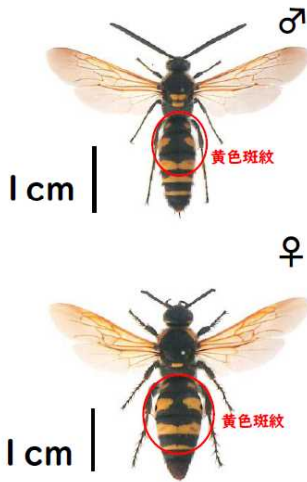
アカアシコハナコメツキ



コハナコメツキ

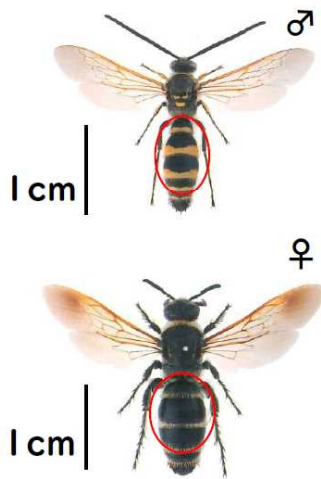
◆オオモンツチバチ（ハチですので要注意！）

腹部の黄色斑紋は太く、
第1、第2節では左右に分離し、
第3節以降は連続して帯状。



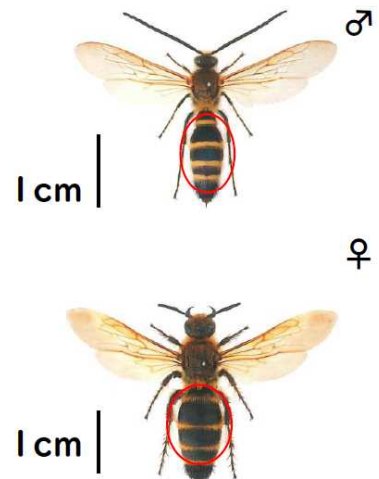
オオモンツチバチ

腹部の黄色斑紋は太く、
左右に分離せず帯状。



ヒメハラナガツチバチ

腹部の黄色斑紋は分離せず
帯状で細い。



キンケハラナガツチバチ

◆調査は昆虫採集です。

- ・ 岸寄りの草地から海側の波打ち際に向けて調査します。
- ・ 草の根元や葉の上、漂着物やゴミなどの下や飛んでいる虫を探します。
- ・ 見つけた虫をその都度記録票に記入します。不明なものは「不明」と記載して下さい。
- ・ 捕虫網やフルイを使って、できるだけ虫を採取します。飛んでいる虫は目視で確認します。
- ・ 採取した虫はジップロックバッグに入れておきます。
- ・ 種名が不明な虫は、付箋に調査票の No を記入してジップロックバッグに入れておき、あとで照合できるようにします。
- ・ 調査時間は 60 分です。
- ・ 安全第一です。素手で虫を触らないようにします。波が上ってこない場所で調査します。